

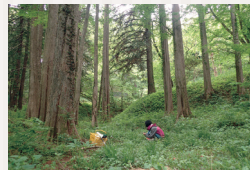
つくばで輝く研究者

NAKAMURA Shoko 中村 祥子 さん

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 多摩森林科学園



埼玉県出身。2007年帯広畜産大学畜産学部卒業。同年理工系図書出版社へ入社、08年退社。帯広畜産大学研究員を経て10年北海道大学大学院環境科学院修士課程入学、12年修了、同年博士課程入学。13年に休学し学術雑誌の編集職等を経て、17年北海道大学大学院環境科学院にて博士（環境科学）の学位取得。同年、森林総合研究所の森林昆虫研究領域（つくば）でポストク雇用の後、21年10月、同研究所の支所である多摩森林科学園にて主任研究員として着任。都市近郊林における花粉媒介サービスに関する研究を行っている。



多摩森林科学園でのスミレの訪花観察調査

《都市近郊林の生物多様性と生態系機能を研究》

専門は訪花昆虫（花）に来る虫。農業や開発などによる環境の変化に伴い世界的に減少している送粉昆虫（花粉を運ぶ虫）の多様性や機能を解明して保全につなげることを目標に、主にフィールド調査で研究を行っている。都市近郊林で樹木の訪花昆虫を集めて多様性の実態調査をしたり、花にネットをかけて訪花昆虫を遮断して訪花昆虫による花粉の運搬状況を評価したり、飼育されているミツバチと野生の訪花昆虫との相互作用などについて研究をしている。生物間の相互作用の背後にあるメカニズムや、

昆虫の多様性や役割を解明し、保全につなげる

そのような作用が生まれるに至った理由を解き明かす「生態学の究極の目標」に向かって、研究にまい進している。

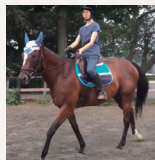
《市民参加型のデータ収集を》

埼玉県出身。幼いころから動物好きで、幼稚園時にはハムスターを飼育。小学2年の時に庭に迷い込んだきた子犬を飼い始めると引退犬患な性格が変り友達を引き連れた。犬の散歩が日課になった。1かけこしたり、ひもの引っ張りっこをしたり、冬の田んぼでネズミの集堀りをしてたりと犬との生活はとても楽しいものでした。当時から漠然と動物に関わる仕事したいと夢を描いていたという。勉強は嫌いではなかったものの、納得しない欠に次に進めない性格のため特に算数の習得には人より時間がかかったと振り返る。

高校は自由な校風にひかれて埼玉県立浦和西高校に進学。私服も染髪もOK、個性豊かな友人たちに囲まれどちらかといえは優等生タイプで堅物だった自分が少し解放された3年間でした。

つくばの生活

東京都八王子市に一人暮らし。つくばにはつながりのある研究者がいますし、今でも趣味の乗馬のために訪れます。研究環境の良さに加えて、野菜のおいしさを魅了のひとに挙げた。



趣味の乗馬

豊かな自然環境にあってがれて進学した帯広畜産大学の生態系の授業で出合ったマルハナバチが研究職へのきっかけになった。外見のかわいらしさに加え、高い学習能力を知りマルハナバチと植物との関係に興味を持ちました。大学卒業後に就職した理系の出版社で研究職との接点が多く「生き生きと研究を語る姿が輝いて見えた」と急発起してアカデミアへ。10年の訪花昆虫については十分なデータ蓄積が無いいため、統一的な調査方法を確立し、市民参加型リサーチの実現も視野に研究を進めている。